

美保飛行場周辺まちづくり構想

平成27年 3月

境港市

目次

はじめに.....	1
<u>I. 事業概要編</u>	
1. 美保飛行場周辺まちづくり事業の目的と位置づけ.....	2
1-1. 事業の背景	2
1-2. 事業の目的	3
1-3. 事業の位置づけ	3
1-4. 計画対象エリアの選定	4
<u>II. 現況調査編</u>	
2. 境港市および計画対象エリア周辺の概況.....	5
2-1. 境港市の概況	5
2-2. 上位計画等	7
2-3. 計画対象エリア周辺の位置づけ	8
2-4. 美保基地と市民との交流	9
3. 計画対象エリアの現状と課題.....	11
3-1. 市民会館周辺エリアの現状と課題	11
3-2. 竜ヶ山公園周辺エリアの現状と課題	13
4. 計画策定の経緯.....	14
4-1. 計画策定の進め方	14
4-2. 検討委員会の実施状況	14
<u>III. 基本構想編</u>	
5. 基本理念等.....	16
5-1. 基本理念	16
5-2. 基本目標	16
5-3. 取組方針	18
5-3-1. 市民会館周辺エリア	18
5-3-2. 竜ヶ山公園周辺エリア	22
6. 今後の進め方.....	24

はじめに

本市では「境港市まちづくり総合プラン」の将来都市像である「環日本海オアシス都市」を実現するため、「連携強化による一体的発展」、「全国ブランドである『さかな』と『鬼太郎』を活かした経済振興」、「一人ひとりを大切にした教育と福祉の充実」、「安心して住みよい生活基盤の充実」、「市民との連携による誠実な行政運営」の五つの基本目標を掲げ、「生涯学習の推進」や「防災体制の整備」などの施策を展開しています。

このたび、国の補助事業である「まちづくり構想策定支援事業」の採択を受けたことから、本市では「災害に強いまちづくり」をコンセプトとして、避難施設でありながら耐震不足からホール部分が使用禁止となっている市民会館のあり方や防災施設の充実・強化、自衛隊員とのさらなる交流の促進を目的に「市民会館周辺エリア」と「竜ヶ山公園周辺エリア」の二つのエリアについて、「美保飛行場周辺まちづくり構想」を策定することといたしました。

この補助事業は、「防衛施設の設置・運用によって周辺地域の住民の生活や事業活動が著しく阻害されている場合において、防衛施設が存在するという地域の特徴を活用し、自衛隊員、米軍人等と防衛施設周辺地域の住民との文化の交流又は地域における防災等のための活動の促進を企図したまちづくりを行う場合に、国がその費用の一部を補助し、防衛施設の存在に対する住民の理解を深めることで、防衛施設とその周辺地域との調和を図る」ことを目的として実施するものです。

この構想策定にあたっては、学識経験者と関係団体の代表者で構成する「美保飛行場周辺まちづくり計画検討委員会」を設置し、自由な発想でご議論いただき、委員会での意見、要望、提案を取りまとめたところです。

今後は、具体的な方策を検討し、「美保飛行場周辺まちづくり構想」の実現に向けて取り組んでまいりますので、引き続き、市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成27年3月
境港市長 中村 勝治

I. 事業概要編

1. 美保飛行場周辺まちづくり事業の目的と位置づけ

1-1.事業の背景

本市には航空自衛隊美保基地があり、航空機の訓練による騒音など住民生活に様々な影響を受けています。これらの影響を軽減するため、基地周辺をはじめ市内全域において、騒音対策や緊急避難道、消防施設の整備など、生活環境の改善に取り組んできました。

現在、美保基地には C-1、YS-11 輸送機、T-400 練習機が配備されていますが、C-1 輸送機はさらに大型の C-2 輸送機への機種変更が決定し、平成 28 年度からの配備が計画されているほか、新たに平成 30 年度までに大型輸送ヘリコプター CH-47 の配備も決定しており、美保基地周辺ではこれまで以上に騒音や航空機事故が懸念されています。

また、本市は自然災害の少ない地域ですが、平成 3 年 9 月の台風 19 号、平成 12 年 10 月の鳥取県西部地震、平成 18 年 7 月の大雨による水害、平成 22 年の大晦日から年初にかけての大雪と近年、大きな災害が発生しています。東日本大震災では津波による被害に加え、原子力発電所の事故が発生したことから、日本海に面し、島根原子力発電所から市域全域が 30 キロ圏内（UPZ*1）に入る本市でも住民の不安が高まっています。

これらの事故・災害に対応するため、本市では地域防災計画を定めていますが、さらに防災体制の充実・強化を図っていく必要があります。

市役所は災害対策本部機能を確保できるスペースがなく、本市最大規模の避難施設である市民会館は老朽化し、耐震不足から使用停止となっており、災害時に備えることが急務となっています。

また、美保基地に近い竜ヶ山公園周辺は自衛隊官舎が位置し、市が宅地分譲を進めている夕日ヶ丘団地があります。この地域は近年人口が急増していますが、避難場所として大規模な公園等はあるものの避難する建物がないことから、避難場所として活用できる施設や大規模災害時に応援部隊の宿営等が可能となる施設の整備が求められています。

これらの施設がある市民会館周辺や竜ヶ山公園周辺では、市民と自衛隊員との交流も盛んに行われており、これらの課題に対応するために「災害に強いまちづくり」を進めるとともに、市民と自衛隊員との交流をさらに促進していく必要があります。

*1 UPZ……緊急時防護措置を準備する区域（UPZ：Urgent Protective Action Planning Zone）。確率的影響（放射線被ばくによる単一の細胞の変化が原因となり、受けた放射線の量に比例して障がい発症の確立が増えるような影響でしきい値がないと仮定されている。）のリスクを最小限に抑えるため、緊急時防護措置を準備する区域。UPZの具体的な範囲は、国際原子力機関の国際基準において、UPZの最大半径は原子力施設から5～30 kmの間で設定されていること等を踏まえ、「原子力施設から概ね30km」を目安とする。

1-2.事業の目的

これらの背景から「市民会館周辺エリア」と「竜ヶ山公園周辺エリア」に防災機能を兼ね備えた文化・芸術施設、スポーツ施設を整備し、市民と自衛隊員との交流も促進するとともに、災害時には防災施設としても活用できるように整備することを目的とします。

1-3.事業の位置づけ

本市では「境港市まちづくり総合プラン」で、「魅力と活気あふれるまちづくり」「心豊かに、安心して暮らせるまちづくり」をまちづくりの基本理念とし、将来都市像を《環日本海オアシス都市*2》と定めて、その基本目標の中で、防災体制の整備や生涯学習の推進に取り組むこととしています。

*2 環日本海オアシス都市……港湾や空港などの社会基盤や資源を活かしたまちづくりに加え、市民の暮らしに根差した基本的な施策を推進することにより、誰もが、快適で、心豊かに、そして「安全で、安心して暮らせるまち」、すなわち、文化的で質の高い暮らしができる独自の魅力を持ち合わせることで、人や物が集まり、砂漠の中の「オアシス」のような活気あふれる街をめざし、そのイメージとして「環日本海オアシス都市」を標榜します。

1-4.計画対象エリアの選定

本市では、災害に強いまちづくりを実現するため、防災資機材の整備や避難所の確保など防災体制の整備を進めてきました。しかしながら市内には、防災対策の不十分な地域があり、早急に整備を進める必要があります。

このような現状を踏まえ、計画対象エリアは、第1回検討委員会において、「市民会館周辺エリア」と「竜ヶ山公園周辺エリア」の2つのエリアで検討することで了承されました。

この2つのエリアに選定された背景には、「1-1.事業の背景」に示すように市役所の災害対策本部機能の確保のほか、市内最大規模の避難施設でありながら耐震上の問題を有している市民会館の今後の対応、また、人口が急増している夕日ヶ丘団地のある竜ヶ山公園周辺は、航空機事故や原子力災害への対応のほか、大規模災害時の拠点地域としての整備も求められているという現状があります。

このエリア以外には夢みなとタワー周辺も検討しましたが、当該エリアは境港管理組合が中心となって「境港“みなとを核とした官民連携による賑わいづくり”計画」を平成26年2月に策定されたことから、計画対象エリアを上記2つのエリアとしました。

今後、防災施設の充実・強化、市民と自衛隊員とのさらなる交流の促進等を目的に、この2つのエリアの一体的な整備に取り組みます。



計画対象エリア

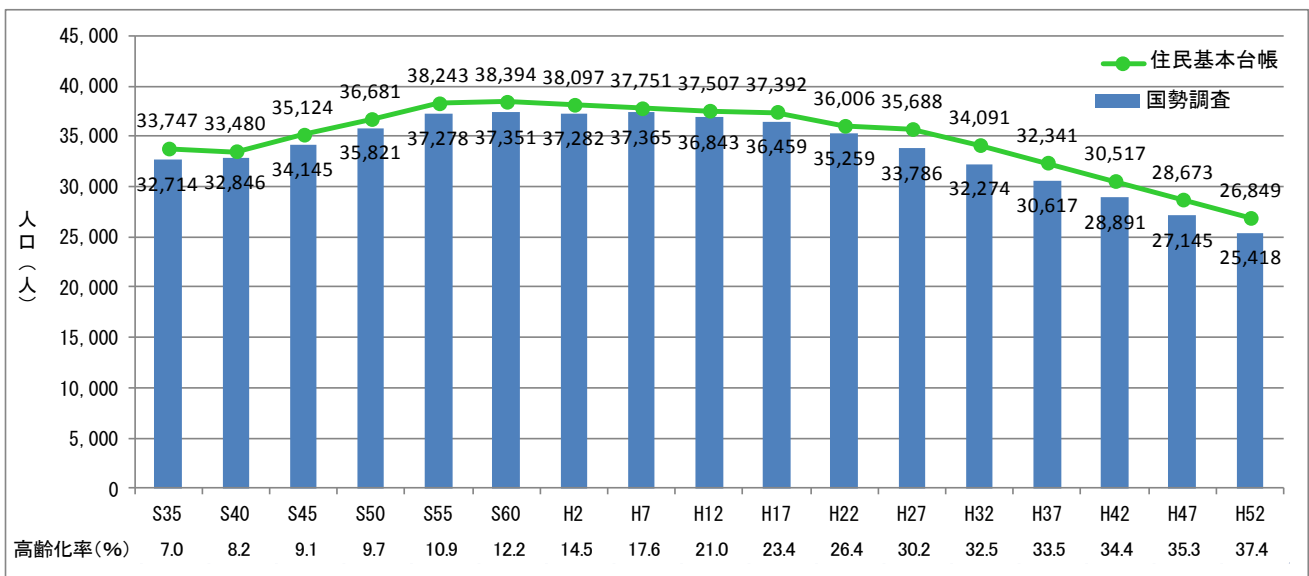
Ⅱ. 現況調査編

2. 境港市および計画対象エリア周辺の概況

2-1. 境港市の概況

(1) 人口

昭和 35 年からの人口の推移および平成 27 年以後の人口予測をグラフにしたものが下図です。国勢調査によると、本市の人口は平成 7 年以降、減少傾向に転じています。また、平成 22 年の高齢化率*3 は 26.4%となっており、今後も高齢化が進んでいくことが予測されています。



出典：国勢調査 (S35～H22) 国立社会保障・人口問題研究所 (H27～H52 国勢調査に基づく試算)
 住民基本台帳 (S35～H22 (3月31日現在) H27はH26.9末人口を示す。)
 住民基本台帳のH32以降は、H27を起点に国勢調査に基づく試算の人口減少率に準じた試算を示す。
 高齢化率は国勢調査に基づく。

人口推移 (S35-H22) および人口予測 (H27-)

* 3 高齢化率 ……総人口に占める 65 歳以上人口の割合

(2) 自然・地勢

長さ約 20km の大砂州である「弓浜半島」の北端に位置し、三方が海に開けています。秀峰「大山」を背景に、風光明媚な白砂青松の海岸線を有しています。市の面積は 28.82km²です。



弓ヶ浜と大山の眺望

(3) 産業

境港は古くから天然の良港であり、山陰地方の要衝として港を中心に発展してきました。江戸時代には北前船の寄港地として急速ににぎわい、戦前は大陸貿易の拠点港として大いに繁栄しました。



境漁港



境港

今日では、環日本海時代を担う貿易の拠点であり、また日本有数の水揚げ量を誇る漁港として、国際的な水産都市・貿易都市づくりを目指しています。



米子鬼太郎空港

また米子鬼太郎空港は 2,500 メートルの滑走路を有し、中海圏域の中核空港として東京便、ソウル便が就航し、地域の経済・観光を支えています。

(4) 歴史・文化

昭和 29 年に境町が周辺の渡村・外江町・上道村・余子村・中浜村の 5 か町村と合併して「境港町」になり、昭和 31 年 4 月に「境港市」として市制を施行しました。近年は「鬼太郎」など妖怪の文化も好評で全国各地から観光客が来訪しています。



水木しげるロード

(5) 航空自衛隊美保基地の歴史

美保基地は市の南部に位置し、昭和 18 年に旧海軍の基地として開設されました。

第 2 次世界大戦後、連合軍による接收を経て、昭和 30 年 6 月から昭和 33 年 6 月まで基地を米空軍と共用し臨時美保派遣隊を編成、C-46 輸送機で運用を開始しました。昭和 33 年 9 月に日本政府に返還され、同年 10 月には輸送航空団が設置されました。



航空自衛隊美保基地

現在は、西日本で唯一の輸送機部隊が所在する基地として、C-1、YS-11 輸送機及び T-400 練習機が配備されています。

隊員は約 1,000 名おり、一部は基地の機能を維持するために 24 時間、交代で勤務しています。

長さ 2,500 メートルの滑走路を持つ美保飛行場は、すべての機能を航空自衛隊が管理運営していますが、自衛隊と民間の共用飛行場に指定されており、「米子鬼太郎空港」として利用されています。

2-2.上位計画等

(1) 境港市まちづくり総合プラン

まちづくり総合プランでは、まちづくりの基本理念を「魅力と活気あふれるまちづくり」、「心豊かに、安心して暮らせるまちづくり」として掲げています。

また、将来都市像として「環日本海オアシス都市」を標榜しています。その中で「生涯学習の推進」として、

- 地域住民の生涯学習に対する意欲は高く、多様で高度化しています
- 生涯学習を進め心豊かな人と文化を育成します

と位置づけています。また、「防災体制の整備」として、

- 防災体制の整備等を進め、安心して住みよい生活基盤の充実をめざします
- 公共施設の耐震化と防災情報基盤の整備を行います

と位置づけています。

(2) 境港市都市計画マスタープラン

境港市都市計画マスタープランでは、市民会館周辺エリアは「交流による人にやさしいまちづくり」として、各種機能の強化充実・景観育成・バリアフリー化などを掲げています。

竜ヶ山公園周辺エリアは「環境にやさしい（緑住共生）まちづくり」として、建物の形態、敷地規模の規制・緑の育成・健康都市などを掲げています。

(3) 境港市地域防災計画・境港市広域住民避難計画・境港市津波防災ハザードマップ

境港市地域防災計画、境港市広域住民避難計画、境港市津波防災ハザードマップでの検討対象エリアの位置づけを確認すると、市民会館周辺エリアについては、

- 市 役 所：災害対策本部、津波一時避難所
- 市 民 会 館：収容避難所、津波一時避難所
- 境中央公園：一時避難所、応急仮設住宅建設用地

と位置づけています。竜ヶ山公園周辺エリアについては、

- 竜ヶ山球場：ヘリコプター発着場、応急仮設住宅建設用地
- 竜ヶ山公園：一時避難所、応急仮設住宅建設用地、バスによる避難の一時集結所（原発事故対応）
- 竜ヶ山陸上競技場：ヘリコプター発着場、応急仮設住宅建設用地
- 市民スポーツ広場：一時避難所、ヘリコプター発着場、応援活動拠点、配布前の物資仮置き場、応急仮設住宅建設用地
- 小篠津町宿舎：津波一時避難所
- 県営夕日ヶ丘団地：津波一時避難所
- 浄化センター：津波一時避難所
- リサイクルセンター：津波一時避難所
- 親水公園高台：津波一時避難所

と位置づけています。

2-3.計画対象エリア周辺の位置づけ

市民会館を中心とする市民会館周辺エリアは、旧市街地を中心とし、公共公益施設が集まっています。市民会館には市役所、図書館が隣接し、近隣には文化ホール等も立地しており文化・芸術の拠点となっています。

市民会館では航空自衛隊音楽隊の演奏会が毎年開催され、航空祭と並ぶ市民と自衛隊の交流の場となっており、多くの市民がこの演奏会を楽しみにしています。また、自衛隊父兄会総会や自衛官募集説明会が行われています。

竜ヶ山公園周辺エリアは、夕日ヶ丘地区と自衛隊官舎を合わせて約 2,500 人が居住しています（平成 26年3月31日現在）。同エリアは土地区画整理事業による宅地分譲を行なっている夕日ヶ丘団地があり、今後も人口の増加が予測される地域です。また、竜ヶ山公園や野球場、陸上競技場などのスポーツ施設が集中し、子どもからお年寄りまで大勢の方々に利用され、自衛隊員との交流の場としても活用されて

いる地域となっています。

2-4.美保基地と市民との交流

自衛隊美保基地と市民との交流は盛んに行われています。中でも、今回の検討エリア周辺で開催されるものを列挙すると次のような交流が展開されています。

今後、市民と自衛隊員とのさらなる交流の促進を図ります。

(1) 市民会館周辺エリア

○ふれあいコンサート in 境港（西部航空音楽隊による音楽演奏会）

時期：6月頃

内容：全国に5つある航空音楽隊のうち「西部航空音楽隊」（本拠：福岡県）による演奏活動。

備考：例年、市民会館での開催だったがH26年度は文化ホール「シンフォニーガーデン」で開催。



ふれあいコンサート in 境港

○自衛隊入隊予定者激励会

時期：2月

内容：3月より自衛隊に入隊される方の激励会



自衛隊入隊予定者激励会

(2) 竜ヶ山公園周辺エリア

○航空祭

時期：5月中旬～6月初旬の日曜日

内容：美保基地に配備されている機体の展示飛行、ブルーインパルスによる曲芸飛行等。

規模：県内外から約60,000～80,000人の来場



航空祭

○美保基地納涼祭

時期：7月下旬

基地グラウンドに特設やぐらを設営し、周辺住民数百人が参加。

備考：各地域の伝統ある踊りが次々と熱演。



美保基地納涼祭

○体験搭乗

時期：9月

内容：C-1 輸送機およびYS-11 型輸送機での体験搭乗を一般開放。体験後は基地でしか販売していないおみやげ等の販売も実施。



体験搭乗

○美保基地少年野球大会

時期：7月

備考：竜ヶ山野球場にて野球大会を開催し、基地周辺から10チーム程度が参加。



美保基地少年野球大会

○鬼太郎カップ境港駅伝競走大会

時期：10月

内容：竜ヶ山陸上競技場を発着点とした駅伝競走大会は「自衛隊の部」があり、全国各地から自衛隊が参加。



鬼太郎カップ境港駅伝競走大会

3. 計画対象エリアの現状と課題

3-1. 市民会館周辺エリアの現状と課題

市民会館周辺エリアには、市民会館、市役所、図書館といった拠点施設が集積しています。特にこのエリアは災害時には防災拠点としての機能を発揮することが期待されています。

(1) 市民会館

昭和 48 年に建設された市民会館は、当時としては最新の設備を誇り、収容定員 1,300 人のホール棟と大・小会議室や和室、展示室など 10 室の会議棟からなる施設です。式典、会議、各種音楽会、講演会、展覧会など多岐にわたる催し物が開催されてきたほか、結婚式場を兼ね備えた総合文化会館として、多くの市民や自衛隊のコンサートなどに利用され、文化・芸術活動の拠点施設として親しまれてきました。また、防災計画上、災害時の避難所としての機能が付与されています。



市民会館

しかしながら、開館後 40 年が経過した現在、施設の老朽化が進み、バリアフリー化もなされてなく、座席やトイレなど利用面での課題が浮き彫りになっています。また、楽屋や搬出口の使い勝手の悪さなどからホール棟の稼働率は 13.6%と低調で、会議室棟においても 12.2～73.5%となっています。

このように、現状の市民会館は公演主催者、施設利用者にとって不便な状況にあります。また、平成 25 年に実施した耐震診断において、ホール部分の I_s 値*4 が 0.10 で「倒壊し、又は崩壊する危険性が高い」と診断されたことから平成 25 年 12 月 12 日からホール部分は使用停止となっています。

【課題】

- ①座席やトイレなど館内施設などの老朽化
- ②公演における使い勝手の悪さによる施設稼働率の低調
- ③耐震診断による倒壊の危険性
- ④避難所の確保が不十分

* 4 I_s 値 (Seismic Index of Structure＝構造耐震指標)

$I_s < 0.3$ 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い

$0.3 \leq I_s < 0.6$ 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある

$0.6 \leq I_s$ 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い

(2) 市役所

市役所は防災計画上、災害時には災害対策本部としての機能が付与されています。しかし、建物自体は昭和 36 年に竣工し、築後 50 年以上が経過しています。平成 20 年に実施した耐震診断の結果、本庁舎 1 階部分は Is 値 0.40 で、防災拠点施設として求められる基準 Is 値 0.75 を下回ったことから平成 22 年に耐震補強工事を行いました。建物自体の老朽化が進行しており、災害時の防災拠点施設としての機能や頑強な建物が求められています。また、本庁舎の建て替えも今後の課題となっています。



市役所

【課題】

- ①施設の老朽化
- ②防災拠点施設にふさわしい機能と堅牢性の欠如

(3) 図書館

市民図書館は市民会館に隣接しており、蔵書数は約 15 万冊、年間利用者数は約 7 万人です。本市では「子育てするなら境港」を標榜し、子育て支援に力を入れており、母子健康手帳交付時、6 か月健診、1 歳 6 か月健診時に絵本をプレゼントしています。また、毎年「読書活動推進大会」を開催し、子どもから大人まで楽しめる生涯読書に力を入れていきます。昭和 52 年に旧館が、昭和 62 年に新館が建設されましたが、手狭となり老朽化が進んでいます。



図書館

【課題】

- ①狭くて使いにくい施設
- ②施設の老朽化

3-2. 竜ヶ山公園周辺エリアの現状と課題

竜ヶ山公園周辺エリアに位置する夕日ヶ丘団地は「健康シティ」として位置づけられており、健康づくりの拠点エリアとなることが期待されています。このエリアには野球場や陸上競技場等のスポーツ施設や大規模な公園が整備されており、近年は定期借地による宅地分譲が進み、住宅地としてのまちなみが形成され、人口が急増しています。

しかしながら、野球場や陸上競技場は老朽化が進んでおり、多くの利用者からの長年の要望により、平成 26 年度に改修整備を進めています。その他、このエリアには市民艇庫やスポーツ広場、クロスカントリーのできる竜ヶ山公園など各種スポーツ関連施設が整備されていますが、いずれも屋外型施設であり屋内型施設はありません。このエリアは健康づくりとともに、美保基地に近く航空機事故の可能性が他地域よりも高く、また島根原子力発電所から 30 キロ圏内（UPZ）に位置していることから、航空機災害時の収容施設や原子力災害時の一時集結所など、防災機能を備えた施設整備が求められます。



野球場



陸上競技場

【課題】

- ①屋内型施設等の欠如
- ②防災備蓄機能の整備が不十分

4. 計画策定の経緯

4-1. 計画策定の進め方

本基本構想（案）の策定については、学識経験者と関係諸機関の代表者からなる「美保飛行場周辺まちづくり計画検討委員会」を設置し、検討を進めています。また、検討委員会とは別に、各種団体に説明やヒアリングを行うなどニーズ等の把握に努めています。

4-2. 検討委員会の実施状況

回	開催日	協議事項／報告事項	委員会の様子
第1回	平成26年9月25日	<ul style="list-style-type: none"> 市民アンケート結果等の報告 市民会館周辺エリア、竜ヶ山公園周辺エリアのまちづくり 二つのエリアにおける施設等の現状と課題 	
—		<ul style="list-style-type: none"> 各委員への個別ヒアリングによるニーズ把握 	
第2回	平成26年11月5日	<ul style="list-style-type: none"> 第1回検討委員会のまとめ 現状の施設の課題整理 今後望まれる施設の機能（二つのエリア） 	
—	平成26年11月21日	<ul style="list-style-type: none"> 検討委員会視察研修（倉敷市玉島市民交流センター、倉敷市児島市民交流センター） 	

第3回	平成26年12月3日	<ul style="list-style-type: none"> 第2回検討委員会のまとめ 視察の報告 基本構想（案） 鳥取県・島根県の市民ホールの状況 	
—	平成27年1月19日	<ul style="list-style-type: none"> 検討委員会視察研修（御殿場市民交流センターふじざくら） 	
第4回	平成27年1月21日	<ul style="list-style-type: none"> 第3回検討委員会のまとめ 視察の報告 美保飛行場周辺まちづくり構想（案） 	
—	平成27年2月6日 ～ 平成27年3月5日	<ul style="list-style-type: none"> パブリックコメント 	
—	平成27年2月17日	<ul style="list-style-type: none"> 基本構想（案）住民説明会 	
第5回	平成27年3月14日		

Ⅲ. 基本構想編

5. 基本理念等

境港市および計画地域の現状を踏まえて、「市民会館周辺エリア」、「竜ヶ山公園周辺エリア」の基本理念及び基本目標、取組方針を定めます。

5-1.基本理念

上位計画・関連計画および2つのエリアで整備する施設の位置づけを踏まえて、基本理念を次のとおりとします。

- 日常的に人が集まる施設
- 多機能で利便性の高い施設
- 災害時に防災の拠点となる施設
- 文化・芸術、スポーツ・健康づくりの拠点となる施設
- 市民と自衛隊員との交流できる施設

【基本理念】



市民が集い、安心できる、交流と防災の拠点づくり
～みんなが集まる広場のような複合施設～

5-2.基本目標

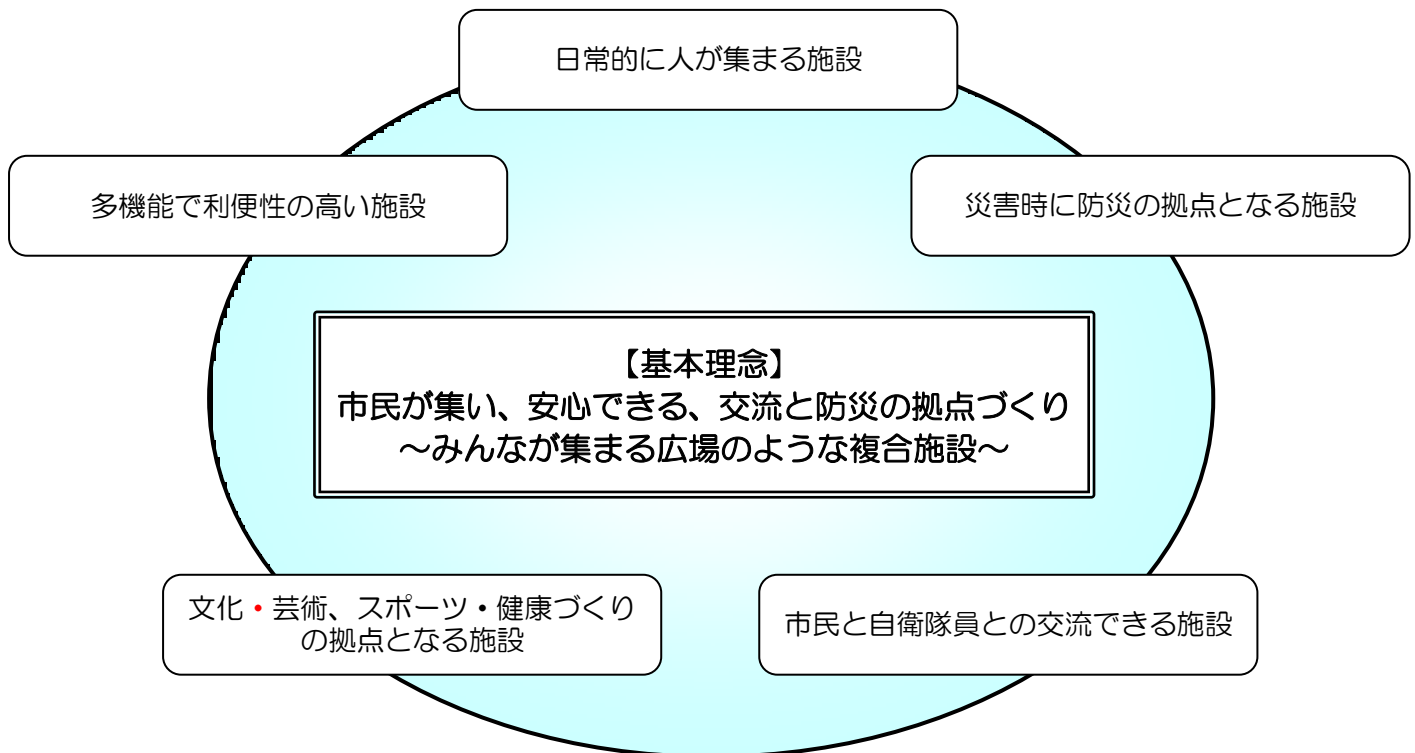
(1) 市民会館周辺エリアの基本目標

- 日常的に多くの人が行き交い、集う施設づくり
 - ・ 高齢化の進展を視野に入れた、子どもから高齢者、障がいのある方など誰もが利用しやすい施設
 - ・ 周辺施設との連動性を高める施設
- 災害時の防災拠点となる施設づくり
 - ・ 災害対策本部として機能できる施設
 - ・ 避難・収容施設として活用できる施設
- 文化・芸術の拠点としてふさわしい施設づくり
 - ・ 自衛隊との交流ができる施設
 - ・ 文化・芸術などに触れることができる施設

(2) 竜ヶ山公園周辺エリアの基本目標

- 日常的に多くの人が行き交い、集う施設づくり
 - ・ 市内外の人が利用できるスポーツ関連施設
 - ・ 子どもから高齢者、障がいのある方まで誰もが利用しやすい施設
- 災害時の防災拠点となる施設づくり
 - ・ 航空機事故時に多用途に活用できる施設
 - ・ 原子力災害時に一時集結所として活用できる施設
 - ・ 災害発生時の対応に当たる隊員の宿営に活用できる施設
 - ・ 災害発生時の対応のための備蓄機能を発揮できる施設
- スポーツの拠点としてふさわしい施設づくり
 - ・ 自衛隊との交流ができる施設
 - ・ 各種大会を開催するのにふさわしい施設

【基本理念イメージ】

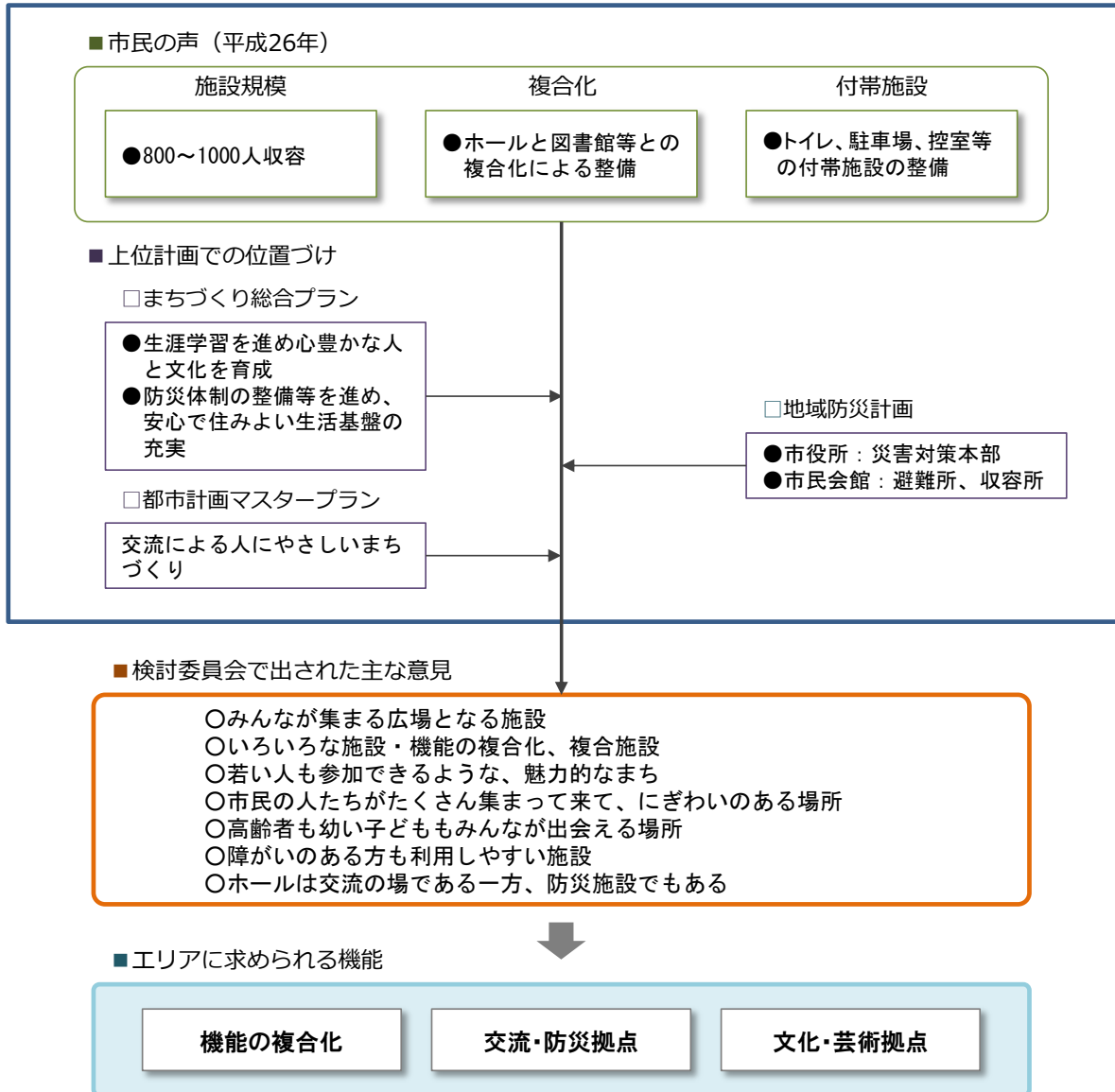


5-3.取組方針

5-3-1.市民会館周辺エリア

(1) エリアの位置づけ

市民会館、市役所、図書館等の施設が集積している市民会館周辺エリアについて、検討委員会で出た意見を基に次のような性格・機能を持たせることとして位置づけます。



(2) 導入機能の検討

①基本方針：キーワード：機能の複合化、交流・防災拠点、文化・芸術拠点

- 複合施設として整備します。
- 導入機能は次のとおりとします。

- 新設・統合する機能
 - ホール・音楽機能
 - 図書館機能
 - 美術展示機能
 - 高齢者福祉機能
 - 会議室機能
 - 防災拠点機能
 - 交流機能
 - その他

- 現状の機能は保持
 - 市民会館利用団体等の利用（市民活動センター、境港市民総合ボランティアセンター、青少年育成センター、やすらぎルーム、境港保護区保護司会、境港更生保護サポートセンター）

②導入機能

■ ホール・音楽機能

【視点1】ホールの規模 = 1,000 席程度を基準として検討

- ① 1,000 席規模の市民会館のホール部分の稼働率が低下（13.6%）しています。
（小～中規模の発表会・演奏会は文化ホール（400 席）の利用が多く、1,000 人規模の公演開催や全席完売というプログラムが少ないことも要因の1つと考えられます）
⇒「少し多すぎる」「800 席以上あれば良い」という指摘がありました。

- ② ホールの規模については、単純に稼働率等の数字だけで判断すると小さい方が財政上良いことになりがちですが、芸術分野において合理性だけで判断することの妥当性の検討も必要と考えられます。
⇒小さくすることで質の高い公演が減り、それがさらに集客効果を低減させるという指摘がありました。
⇒各種コンサートでは、クラシックでは過剰という指摘がある一方で、自衛隊との交流という意味では、「ふれあいコンサート」は現状でも不足という指摘もありました。

【視点2】ホールの特質（固定式／可動式）

- ① 質の高いコンサート等を誘致できる音響を確保する。（固定席）

- ② 多目的な利用を可能とする場を確保する。(可動式)
⇒可動式の場合、避難所としての防災拠点機能を、より色濃く複合可能。
(「境港市地域防災計画」「境港市広域住民避難計画」「境港市津波防災ハザードマップ」では、市民会館は、「収容避難所、津波一時避難所」に位置づけています。)
⇒音響の確保という意味では、反射板などの補助機能の検討が必要。

【視点3】駐車場の確保

- ① 駐車場の整備は近隣の公立文化施設では、総席数に対する駐車台数の割合が、概ね約10%～30%程度の規模となっています。これを参考にすると、市民会館の席数を1,000席と想定すれば、駐車台数は100台～300台の範囲となります。(現状：平日60台(5%)、休日260台(23%))
- ② 上記の通り、駐車場は現状で確保されていますが、可能な限り、更なる確保に努力する。

■ 図書館機能

- ・ 市民が集い、交流し、知識や情報を取得する場であり、また自ら発信もできる場として整備。
- ・ 乳幼児等と一緒に楽しめる空間、乳幼児が遊べるスペースの確保。
⇒図書館機能に児童センター機能を含むイメージ
- ・ 学習利用等の場として整備。
- ・ 蔵書の拡充に対応可能な施設。

■ 美術展示機能

- ・ 会議室と併用できるよう、照明等各種展示機能の確保。
- ・ エントランスロビーやホールといった空間を活用した各種展示機能の確保。

■ 高齢者福祉機能

- ・ 高齢者等が気軽に立ち寄ることができる場所の検討。
- ・ 福祉関係機関などの事務所機能の複合化の検討。

■ 会議室機能

- ・ 一般的な会議室として利用(現在ある会議室の規模等は確保することを前提)。
⇒可動壁とするなどにより、各種展示などの多目的に利用

■ 防災拠点機能

- 災害対策本部として機能できるスペースを確保し、情報の集約、関係機関の連絡調整等を実行する場として利用。

⇒執務室、本部会議室、資機材、防災備蓄倉庫等

■ 交流機能

- 自衛隊の歴史的資料や情報、活動内容を広報、展示できる場所の確保。

⇒美保基地や自衛隊の活動に関する図書や写真、各種情報の展示スペースや、防災に関する資料や防災グッズの展示スペースなど

■ その他

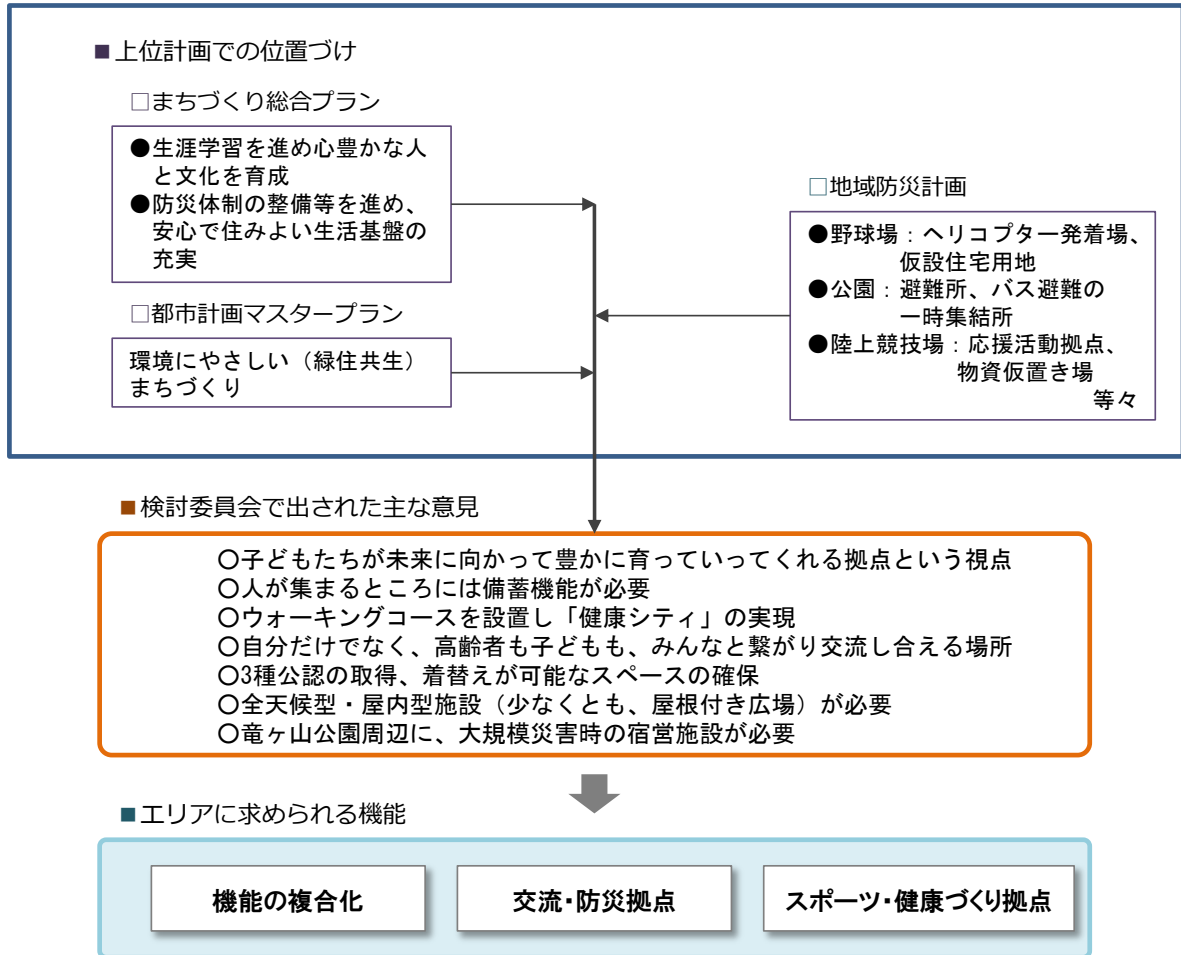
- 市民が集まり軽食等を楽しむことができるカフェ等の検討。

⇒ホールでのイベントや会議の前の待ち合わせに使うことができるスペース

5-3-2. 竜ヶ山公園周辺エリア

(1) エリアの位置づけ

野球場、陸上競技場などスポーツ施設が集約されている竜ヶ山公園周辺エリアについて、検討委員会で出た意見を基に次のような性格・機能を持たせることとして位置づけます。



(2) 導入機能の検討

① 基本方針：キーワード：機能の複合化、交流・防災拠点、スポーツ・健康づくり拠点

- 竜ヶ山公園周辺地域の人が利用しやすい屋内型体育施設
- 支援物資等を備蓄できる施設

■ 導入機能の候補は次のとおりとします。

- 屋内型体育施設、屋根付き広場
- 宿営機能（駐車場整備）
- 備蓄機能
- 交流機能



イメージ写真：屋根付き広場

②導入機能

■ 屋内型体育施設、屋根付き広場

- 竜ヶ山公園周辺地域の地区体育館として、幸神体育館、渡体育館と同程度以上の規模を検討。
- 防災避難施設としても活用できる屋根付き広場を検討。

参考：体育館の設置状況

施設名	敷地面積 (㎡)	建物面積 (㎡)	施設内容
市民体育館	15,380	4,418	大体育室 1,710 ㎡、小体育室、武道場
第二市民体育館	4,237	1,442	体育室 1,288 ㎡
幸神体育館	1,163	513	体育室 444 ㎡
渡体育館	1,235	785	体育室 644 ㎡

出典：境港市の概要 Data Book 2014

■ 宿営機能（駐車場整備）

- 大規模災害時に大型車両が駐車できるスペースを検討。

■ 備蓄機能

- 市の現状の備蓄を分散し、屋内型体育施設の一室、既存施設を活用したスペースに備蓄できるスペースを確保。

■ 交流機能

- 屋内型体育施設あるいは屋根付き広場については、自衛隊員等と地域住民とのスポーツを通じた日常的な交流の場として活用。

6. 今後の進め方

委員会での議論等を踏まえて、構想（案）の実現に向けて、今後、以下の通りに検討を進めます。

美保飛行場周辺まちづくり構想(案)の進め方

